

子どもたちの環境を考える ～ ストレス耐性と暮らし方 ～

子どもたちを成長させるためにどうしても必要なのは「ストレス」です。人間は環境からの「ストレス」を克服するために自然環境を学習し、快適に過ごせるように道具を開発してここまで文明を発達させてきました。しかし、この「ストレス」は人間の成長にとって大切な要素である反面、急激に、過度に加えられると「成長」は阻害され、それ以上に「成長」することを拒絶することになる。「ニート」や「引きこもり」が、その現れなのではないかと考えられます。

さて、戦国時代、今川義元が人質だった幼い家康を「むごく」育てたという話があります。どんなにむごい（ひどい）かという、うまいものを食べさせ、冬は暖かく、夏は涼しい環境を与える。そして、辛いことがないように、大事に大事に育てるというのである。こうすることで、義元は「そうすれば、大抵のやつは駄目になる。」と言ったそうです。



今の子どもたちはどうでしょう。適度なストレスを感じながら過ごしているのでしょうか。中学校に入学してからもう一学期が過ぎ、小学校生活とは異なった時間帯で、新しいことにチャレンジしていることから、かなり厳しい環境に身を置いて子どもたちはがんばっていると考えられます。この経験が、「ストレス耐性」を身につけさせ、後々、心が強くたくましい人間として成長できるのではないかと思います。しかし、子どもたちは夢中になってしまうと全体のバランスを考えず無理をしてしまうことも考えられます。子どもたちの表情や言動を見ながら、時には厳しく、時には優しく接して欲しいと思います。期末テストまで1週間を切りました。今は大変な時期を過ごしている子どもたちですが、一番心も体も鍛えられ成長できる時期でもあります。「むごく」育てていないか確かめつつ、「しっかりと包み込み、支え」ながら、子どもたちの成長の様子を楽しんでいきましょう。

マナーアップ運動でさわやかな毎日を

今回もとても元気な声でマナーアップ運動をしてくれました。あいにくの雨模様でしたが、うっそうとした曇り空を吹き飛ばすような、気持ちの良い挨拶をしてくれました。

気持ちが浮かれている日、沈んでいる日…毎日変化する気分ですが、挨拶はそんな気持ちをリセットしてくれます。

元気な挨拶をこれからも続けよう。

